

ふくいけ
福池古窯発掘調査報告

ふくいけ
福池古窯



調査風景



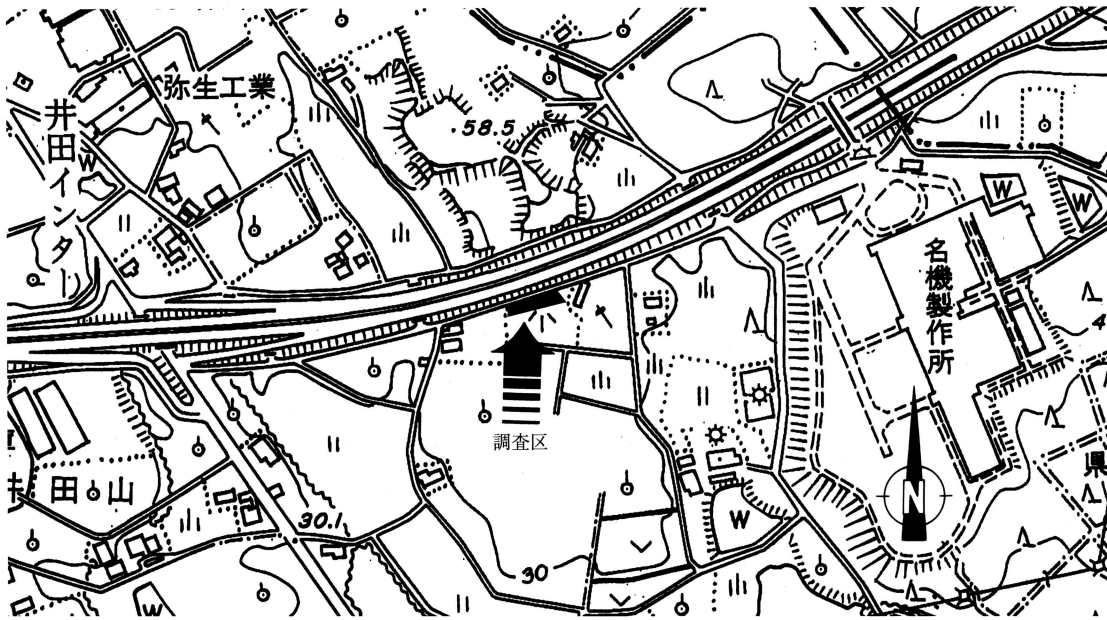
調査区全景

調査の経過 本調査区は、大府市北崎町福池地内に所在する。この起伏にとんだ丘陵地に、建設省・日本道路公団によって国道23号線側道拡幅工事が行われることとなった。この地は、猿投山西南麓古窯址群の鳴海地区有松支群にあたり、周辺に所在する遺跡には、古代から中世にかけての古窯が多い。そして、今回の拡幅予定地脇の斜面は、以前から、いわゆる「山茶碗」の破片が散布している場所として知られていた。したがって、この拡幅予定地には窯跡などが遺存している可能性が考えられたため、(財)愛知県埋蔵文化財センターでは、県教育委員会の委託を受け、側道拡幅工事に先立つ事前調査として、発掘調査を行うこととなった。発掘調査は平成10年1～2月まで行い、調査面積は600㎡である。

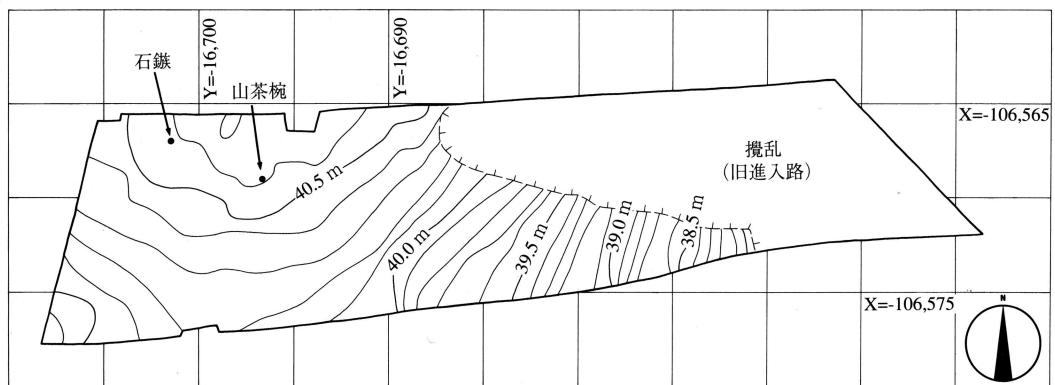
調査の概要 今回設定された調査区は、丘陵地中腹の南東向き斜面に位置している。調査区の基本層序は、表土の下に部分的に黒色土が客土として確認でき、さらに灰黄褐色極細粒砂が堆積し、基盤層は基質に粘土を含む円礫層及び、赤褐色粘土である。

調査区周辺は、以前は畑地として利用されていたこともあったようであるが、現在では竹林となっており、この竹林を伐採した後、機械及び人力によって抜根作業を行い、検出作業を開始した。調査予定地の東端は、隣接地から側道に合流する進入路となっているが、この西の平坦な段状部分は旧進入路が表土に覆われており、この部分の道路構造物を除去したところ、全面が基盤層であった。したがって、この旧進入路部分は、さらに低位に位置する現進入路も含めて攪乱と判断した。竹や笹の枝根は、基盤層直上まで検出面全体に広がり、検出作業を難航させた。この検出作業では、基盤層を露呈させるに至るまで人為的な掘り込みの痕跡は見つからなかった。調査区の壁断面を観察すると、基盤層が斜面状に続いて堆積していない部分があり、調査地点は何らかの理由で削平されていたと考えられる。

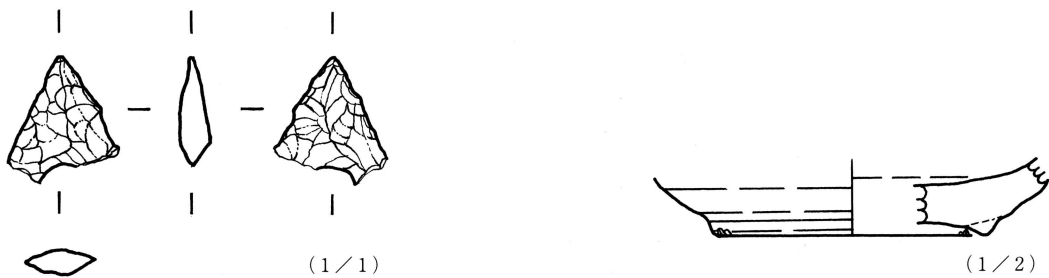
検出された遺物は、基盤層直上でチャート製の凹基無茎石鏃が1点と、竹根に絡む状態で、いわゆる「山茶碗」の高台に刳痕を有する底部破片が1点のみであった。(松田 訓)



第1図 調査区位置図 (1:10000)



第2図 調査区全体図 (1:400)



第3図 出土遺物実測図